修士論文概要書

Summary of Master's Thesis

Date of submission: 01/16/2013 (MM/DD/YYYY)

| 専攻名(専門分野) Department | 機械科学 | 氏 名 Name | 星野 隼人 | 指導 | 川太 | 広行 | 印 Seal |
|----------------------------|---------|------------------------------|----------------------------|----------------|------|----|-----------|
| 研究指導名 Research guidance | 精密工学研究 | 学籍番号 Student ID number | $^{ m CD}_{5112 m C084-2}$ | 教 員 Advisor | 7177 | | |
| 研究題目 Title | 月面探查機器隊 | (間へのル | ナダストの侵入を防」 | 止する | 静電シ | ール | ド機構 |

1. 研究目的

今後の宇宙開発の拠点として月が注目を集めているが、月面 上を覆うルナダストと呼ばれる微小な砂塵は月面探査機器のべ アリングなどの摩耗を引き起こす.この問題に対し、ブラシ型 シールやメカシールなどの機械的シールが高い防塵性能を示す ことが報告されている.しかし機械的シールは寿命面で課題が 残るため、その補助を目的として静電力にてルナダストの隙間 への侵入を防止する静電シールド機構を開発した.

静電シールド機構は隙間の両側に配置した電極と電源装置で 構成される. 電極には電源装置から出力された交流電圧を印加 し、隙間付近で交番的な電界を形成する.帯電したルナダスト は静電力により電極に引き寄せられ、その後電界が切り替わる と反発し、隙間の外側に誘導される.

本研究では片側の電極のみに電圧を印加する簡易な機構を開 発した. さらに電極を立体的に配置することで広範囲に電界を 形成し、防塵性の向上を図った.図1に静電シー -ルド機構の概 略図を示す. 3



2. 研究方法

本機構の性能を評価するために地上試験と月面環境下での性 能の予測を目的としたシミュレーションを行った.

2.1 試験装置

試験装置は静電シールド基板、砂塵落下装置、電源から構成 される.砂塵落下装置を用いて静電シールド基板上に月模擬砂 を落下させ、静電シールド基板の隙間から落ちた粒子の重量を 測定する. 交流電圧を印加しなかった場合と印加した場合の砂 塵侵入重量を比較することで侵入を防いだ砂塵の重量割合を表 すシールド効率ηを算出した. 試料としては月土壌の成分や粒度 分布を再現した月模擬砂(粒径 106 µm 以下)を使用した.

2.2 シミュレーション方法

剛体球モデルの個別要素法を用いた粒子挙動シミュレーショ ンを行った. 粒子に働く外力としてクーロン力, 分極力, 付着 力,重力,空気抵抗を考慮し,運動方程式はルンゲクッタ法で 解いた.評価基準は地上試験と同様である.図2に平面+線電極 基板のシミュレーションの様子と電気力線を示す.

3. 研究成果

図3に平面+線電極基板における高速度カメラで撮影した5ms 間隔の写真を示す.図3より、○で囲った粒子が線電極に引き寄 せられ、その後隙間の外側に排出されていることが確認できる. また,平面電極基板と平面+線電極基板の印加電圧特性を図4に 示す.図4より、線電極を追加することでシールド効率が大き く向上したことが確認できる.図5に印加周波数特性を示す. 平面電極基板に対し平面+線電極基板の場合,周波数によるシー

ルド効率の変動が小さいことが確認できる.

図6に平面+線電極基板の地上試験および地上・月面でのシ ミュレーション結果を示す.図6より,地上試験と地上シミュ レーションの結果が概ね一致していることが確認できる.また, 月面では地上より高いシールド効率を示すことが予測された.

月面機器にルナダストが勢いよく降りかかることを想定し, 粒子に侵入速度を与えて月面シミュレーションを行った. その 結果を図7に示す.図7より,粒子の速度が増加するほどシー ルド効率は低下することが予測された.しかし,電圧を6kVp-p まで昇圧することで侵入速度3 m/s の際も50 wt%のシールド 効率を達することも予測された.



発表論文

40

20

0

図 6

0

0.5

<u>星野</u>, 田島, 稲荷, 川本, 月面探査機器の隙間へのルナダスト 侵入を防止する静電シールド機構, 機械学会 第 22 回スペー ス・エンジニアリング・コンファレンス [SEC'13] (2013).

1 1.5 2 2.5

印加電圧 kVp-p

月面での性能予測

20 2

図 7

0

2 3

印加電圧 kVp-p

砂塵侵入速度特性

5 6

? | 0